

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「日本一の定時制高校」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、自己実現のサポート体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入って良かった。」と実感できる学校づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、社会の一員として自立した生活を営むことのできる力を養う。

2 中期的目標

(1) 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長

- 生徒の自己実現を促進するための取組み
 - ・少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりの推進
 - ・生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習の実施
 - ・外部指導員等の活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上
- 生徒の学力の正確な把握
 - ・適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と適確な個別指導の展開

※数学基本力調査の実施 (H26：1年次生対象)

(2) 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり (スクールソーシャルワークの組織的体制づくり)

- 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み
 - ・新入生の情報の収集、及び中学校との連携強化による支援方策の検討
 - ※特別な配慮が必要な入学予定生の出身中学校を全校訪問する。(H26：すべての出身中学校と電話で情報交換)
 - ・全教職員の生徒情報を共有するシステムの充実と細やかな指導による卒業率の向上 (進路情報連絡会の設置)
 - ※卒業率を少しでも向上させる。(H26年度 3年コース 3名/5名、4年コース 21名/27名)
- 校内支援組織の整備と充実
 - ・校内支援委員会の機能充実
 - ※「高校生活支援カード」「気になるメモ」等のファイルリングによる個人カルテ (仮称) の作成
 - ・SSW活動の推進
 - ※専門家と生徒、保護者、学校との連携による個別支援計画の作成
 - ※児童精神科医、SC、SSW、CCとのケース会議の開催
 - ※職業適性検査等の活用
 - ※ハローワークや若者サポートテーション等との連携

(3) キャリア教育と人権教育の充実

- 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の実践
 - ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
 - ※学校斡旋就職内定率 (H26：4/4名) 100%を達成する。
 - ・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
 - ※進路未決定率 (H26：12.5%) を少しでも減少させる。
- ・人権教育推進委員会の活性化

(4) 学校力の向上

- 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進
 - ・教職員研修の充実
 - ・教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築
 - ※研究授業のあり方を検討する。
 - ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
 - ※他校の先進事例等の研究を推進する。
 - ・静かな教育環境の保持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るための組織的な指導体制の構築
 - ※教員相互の指導体制の平準化を図る。
 - ・教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の再構築
 - ・部活動の活性化 (H26：運動部 48名、文化部 30名/149名 7/1現在)
 - ・保護者との連携強化
 - ・将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って企画調整委員会で検討する。

(5) ICTを活用した校務の効率化

- 校務の効率化による生徒と向き合う時間の確保
 - ・生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進
 - ※ICT委員会を中心とした円滑な新校務処理システム運用
 - ※ICT機器を使った授業についての研究 (視覚教材の活用を推進)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11～12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>回収率（在籍数 140 名 教員 19 人）</p> <p>保護者 15.7% (H26 6.7%) 生徒 66.4% (H26 53%) 教員 94.7% (H26 82.4%)</p> <p>今年度は回答しやすいように設問を厳選し項目を減らしたり、文化祭や授業見学週間等を利用して回答の機会を増やすことができた。</p> <p>生徒 20 項目←50 項目 保護者 10 項目←45 項目 教員 63 項目←83 項目</p> <p>●生徒の評価の高いもの（よく当てはまる＋やや当てはまるの合計）</p> <p>○生徒「先生は生徒の意見を聞いてくれる」92% (H26 : 91%) 保護者「先生は子供を理解している」100% (H26 : 80%) 教職員「教職員は生徒の意見を良く聞いている」100% (H26 : 93%)</p> <p>○生徒「必要な情報は適切に伝えてもらっている」96% (H26 設問無) 保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」 91% (H26 50%) 教員「情報提供を生徒、保護者、入学希望者などに適切に行っている」 93% (H26 100%)</p> <p>○生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」92% (H26:86%) 保護者「進路指導面で学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」 91% (H26 : 50%) 教員「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」 100% (H26 : 93%)</p> <p>○生徒「自分が学校に来ていることは意味があると思う」 91% (H26:設問無) 保護者「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」96% (H26 : 60%) 教員「学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応じている。」 100% (H26 : 93%)</p> <p>学校協議会でも指摘があり、保護者のアンケート回収率が低いことを改善するために、アンケート項目を厳選し、また文化祭等の機会に直接回答を依頼した。</p> <p>生徒 50 項目から 20 項目へ 保護者 45 項目から 10 項目へ 教員 83 項目から 63 項目へ</p> <p>回収率は平成 26 年度と比較して大幅に増加し、アンケートの信頼性が上がったと思われるが引き続き回収率を上げる努力が必要と思われる。</p> <p>●生徒の評価が相対的に低いものは部活動等の活動や学校へでの楽しさに関する質問であることから、自尊感情が十分持てない様子が見て取れる。</p> <p>質問を厳選したので昨年度と単純に比較ができないが概ね好評を得ていると思われる。平成 28 年度には改訂版の自己診断票の比較が可能となるので引き続き努力をしたい。</p>	<p>第 1 回 学校協議会（平成 27 年 7 月 21 日（火））</p> <p>○学校を取り巻く教育環境、学校経営計画、アドミッションポリシーの説明 志願者数の減少により 1 クラス募集となったが昨年度と生徒在籍数は約 140 名であり変化はない。 SSW（スクール・ソーシャル・ワーク）活動を推進して個別の支援に力を入れており、教員の絶対数が少ないので苦労している。また生活困窮者自立支援法も施行され、定時制に通学してる生徒の多くがこの法律に係る生徒である。NPO 法人「み・らいず」との連携して高校内における居場所のプラットフォーム化事業を推進する。</p> <p>●意見 エンパワメントスクールが開校されているが、その役割について定時制との違いがわかりにくい。また、大阪市内の交通の便の良い所に開設してほしい。 基礎学力に力を入れている（数学・国語で学力把握のテストを実施）のは理解できる、加えて社会的な自立も重要な課題である。コミュニケーション能力が社会では問われる。アルバイトの経験も重要である。 定時制に通学して子どもの考え方が大人になってきたので喜んでいる。</p> <p>○平成 28 年度教科書の選定</p> <p>●意見 適切に選ばれていると認められます。</p> <p>第 2 回 学校協議会（平成 27 年 9 月 30 日（水））</p> <p>○第 1 回授業アンケートについて 全体平均が 3.3 と高い数字となっている。全体として極端に低い数字の教員はいない。</p> <p>●意見 夜間中学でも高い数字があるので共通している。人間関係性が希薄な教員は低くなる。中学校の生徒ははっきりと好き嫌いを言います。また、楽しい授業は高い数字になり、厳しい授業が低くなるが学年が進行すると厳しさを理解する生徒も出てくる。 生徒数やアンケートの傾向から統計的にあまり意味をなさないように思うので参考程度と考える方が良いのではないかと。</p> <p>○授業見学 1 年生 「科学と人間」 A 教諭 ・ 2 年生「現代文 A」 B 教諭の 2 コマを見学</p> <p>●意見 2 年生になると落ち着いている印象がある。文字を書けない生徒も多いので書かせる授業は良いと思う。 2 人とも平易な言葉を選んでいる。日常生活に結びついている。 定時制は出席するので精一杯の生徒もいる。大手前は幅広い年齢の生徒がいて状況に合わせて授業をされている。 企業へのインターンシップのような授業はできないか。</p> <p>第 3 回 学校協議会（平成 28 年 2 月 5 日（金））</p> <p>○今年度の経過報告 出席率は上昇し、そして欠席、遅刻は減少した。特に生活指導案件は 0 件であった。非常に落ち着いた環境で学校運営ができています。部活動でもバドミントン部や陸上競技部が全国大会に出場した。就職の内定率が今年は苦戦している。</p> <p>○各種アンケートの報告（授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査） 授業アンケートは前回と同様で肯定的意見が 80% を超えている。 特に実技教科が 90% を超えているのが特徴である。 学校教育自己診断では回収率を上げる工夫をした。 文化祭等保護者の来校時にアンケートを取ったり、質問項目を精査した。「学校に行くのが楽しい」という項目が他より低い傾向がであった。生活実態調査も同様である。改善の工夫を平成 28 年度考えていきたい。</p> <p>●意見 「学校に行くのが楽しい」の項目について、学校が小規模になり人間関係が上手くいくか、いかないかでかなり違ってくる。そういう意味では今年大阪大学の学生が 10 名大学の教職講座「総合演習」で延べ 300 時間を演習として学校業務を手伝ってくれた。また、関西大学の院生や NPO 法人「み・らいず」教師塾の学生等、外部の若い人材が助けてくれたのは良かったのではないかと。次年度も継続できるように考えている。 企業と生徒のマッチングが難しいのが問題、企業も人手不足の事情もあるので中小企業家同友会でも慌てず学校の状況も知っていただく機会を持ちたい。 学校の公文書の取扱を教員は把握していない教員がいるようだが、若手教員に対して指導が必要であろう。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長</p>	<p>(1) 生徒の自己実現を促進するための取組み</p> <p>ア 社会で必要とされる学力を身につけるための教育活動の工夫</p> <p>(2) 生徒の学力の正確な把握</p> <p>イ 生徒の潜在能力の発掘と適確な個別指導の徹底</p>	<p>ア 少人数授業や必要に応じた授業を行い、「授業がわかった」、「授業が楽しい」と生徒が思う授業づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズ、実態に沿った基礎学力及び大学進学のための学力を身に付けさせる補講・講習を実施する。 外部講師の活用によりコミュニケーション力のさらなる向上を図る。 <p>イ 適性検査の実施及び英検・漢検の受検機会を促進し生徒の能力の適確な把握に努める。</p> <p>ウ 視覚教材が活用できる教室環境の整備を進める。</p>	<p>ア 「授業アンケート」における「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている」、「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」の肯定率 80%以上を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度を維持する。(H26 : 87%) <p>イ 適性検査等を実施し、個人カルテを作成し生徒指導に生かす。</p> <p>ウ ICT機器の活用状況 無線LANが活用できるように情報セキュリティーを構築しタブレット型PCが使用できる環境を作る。</p>	<p>ア 授業アンケート (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている」 第1回 座学 78% 実技 78% 第2回 座学 86% 実技 86% 「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。」 第1回 座学 79% 実技 74% 第2回 座学 76% 実技 92% 外国語外部講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度(○) H27 : 89% イ 適性検査の結果を職員会議等や校内支援委員会で検討できている。生徒、保護者へ適性の受容を推進している。今年度は3名実施 (○) ウ 無線LANの環境設定を業者に依頼、年度末までに完成予定 (○)
<p>2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み</p> <p>ア 生徒情報の収集と実態把握</p> <p>イ 個人情報集約化とファイリング</p> <p>(2) 生徒支援組織の整備と充実</p> <p>ウ 校内生徒支援委員会の機能充実</p> <p>エ 生徒相談活動の機能充実</p> <p>オ スクールソーシャルワーク(SSW)活動を組織的に活性化させる。</p>	<p>ア 合格時点から新入生の情報を収集するとともに、中学校との連携を強化し、必要な支援方策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が生徒の情報を進路情報連絡会で共有し、個別支援により卒業生数を増加させる。 <p>イ 「高校生活支援カード」や「気になるメモ」等を活用し個人カルテを作成する。</p> <p>ウ 校内支援委員会の機能強化 S C、SSWとのケース会議により生徒の進路プランニングを行う。</p> <p>エ 生徒が気軽に相談できる場所作り。保健室、S C、関西大学臨床心理専門大学院と連携した相談室の設置</p> <p>オ 生徒の個別支援計画を作成卒業後の自立を支援する。</p>	<p>ア 特別な配慮が必要な生徒の出身中学校を全校訪問する。また生徒一人一人を丁寧に支援する本校のSSW活動を中学校へ広報して志願者の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業率を向上させる。 H26 : 3年次生 3名/5名 4年次生 21名/27名 中退率を前年度から5%減少させる。 H26 : 21名/149名 (3月末現在) 全校生徒の出席率を前年度より向上させる。 H26 : 約70% (H26 : 2月末) <p>イ 学校教育自己診断の評価において</p> <p>「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H26 : 80.0%)</p> <p>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H26 : 86.0%)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 (H26 : 75.0%)</p> <p>3つの項目を前年度より少しでも向上させる。</p> <p>ウ ケース会議を月例で開催すること。また、プランニングの件数を増加させる。 (取り上げた生徒数 H26 : 17件)</p> <p>エ 生徒の相談件数と教員アンケート肯定率の向上</p> <p>H26 : 保健室延べ 1093件 (3月現在) 関大院生 497件 教員アンケート 93%</p> <p>オ 特別支援の生徒の個別支援計画の実施する。 計画件数を増加させる。 (H26 : 4件)</p>	<p>ア 新入生の中学校等への聞き取りは、電話等にてすべて行い。一覧として職員全員で共有している。(○)</p> <p>SSW活動を授業公開(11月)や学校説明会(1月、2月)に機会に行った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業率 (◎) H27 : 3年次生 5名/7名 4年次生 27名/30名 (予定)卒業率 86.4% (H26 : 75%) 中退率 (○) H27 : 16名/142名 全校生徒の出席率 (◎) 4月当初は80%を達成 平均70%~75%を維持。 イ 学校教育自己診断 (○) 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる」 (H27 : 83%) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 (H27 : 84%) 「学校に行くのが楽しい」 (H27 : 79%) ウ ケース会議は年間10回開催した。(○) 取り上げた生徒数 H27 : 9件 職業適性検査の実施件数が3件 エ 生徒相談件数 H27 : (○) 保健室 延べ 899名 関大院生 延べ 720名 NPO法人「み・らいず」 延べ 187名 オ 個別支援の具体化 (○) SSWのケース会議で方針を探る。H27 : 4件

府立大手前高等学校

<p>3 キャリア教育と人権教育の充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育・人権教育の計画の策定</p> <p>ア 計画の企画立案の核となる組織づくりの推進</p>	<p>ア ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携した就労指導のスキルを向上させる。</p> <p>・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</p> <p>イ 支援教育サポート校からの支援を受けて、障がいのある生徒の就労について、校内支援スキルを向上させる。</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率100%にする。 (H26: 4/4名 100%)</p> <p>・外部機関との連携を図り、進路未定者数の減少に努める。 (進路未決定率 H26: 8.6%)</p> <p>・就職コーディネーターの活用 若者サポートステーションとの連携を継続・発展させる。</p> <p>イ 障がいのある生徒の職業体験から就労まで繋がる進路指導の確立</p> <p>・生徒のコミュニケーションスキルを向上させるためのワークショップ (WS) やキャリア教育関係の講話を実施する。</p>	<p>ア 学校斡旋就職希望者の内定率 (Δ) 5名/7名</p> <p>・進路未決定率 (Δ) 28.6%</p> <p>・就職コーディネーターの活用 (○) (年間 100 時間)</p> <p>・枚方若者サポートステーション、大阪市若者サポートステーションを連携を図っている。(人的交流、情報交換等) (○)</p> <p>イ 福祉行政の入り口である障がいの受容と職業適性検査から手帳の取得 就労支援と繋げる手法は獲得できた。課題は障がいの受容をどのように進めるかである。 (○)</p> <p>・関西大学臨床心理専門大学院生による年2回のコミュニケーションワークを実施。本校卒業生の企業家の講演を実施 (○)</p>
<p>4 学校力の向上</p>	<p>(1) 組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p> <p>ア 教職員研修の充実</p> <p>イ 教職員相互による研修を積極的に推進し、教職員同士で学びあうシステムの構築</p> <p>ウ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>エ 教職員が一丸となって教育活動に関わる学校組織の構築</p> <p>(2) いきいきとした学校生活を送るための環境整備</p> <p>オ 部活動の活性化</p> <p>カ 保護者との連携強化</p> <p>キ 企画調整委員会の活性化</p>	<p>ア 教職員研修の系統立てた実施計画を策定する。</p> <p>イ 研究授業週間の一層の充実を図る。</p> <p>ウ 関西大学大学院等外部機関との連携を強化し、生徒の適性に沿った指導体制を強化する。また、他校の先進事例等の研究を推進する。</p> <p>エ 静かな教育環境の保持及び携帯電話や学校生活のマナーについての意識高揚を図るため、組織的な指導体制を構築する。</p> <p>オ 部活動の活性化により、生徒自らが学校生活に潤いを持てる環境を整備する。</p> <p>カ 保護者会と教員の懇談会を実施する。</p> <p>キ 志願者数減少の分析と教員数の減少に伴う校内組織の再構築の検討を行い、学校力の向上を図る。</p>	<p>ア メンタルケア、福祉関係、コンプライアンス等の研修を実施する。 (H26 研修会数9回)</p> <p>イ 興味ある授業づくりを推進するため研究授業の継続と研修会の実施</p> <p>ウ 関西大学院生による生徒のメンタルサポート事業アンケート(教員向け)を実施し肯定率を少しでも向上させることを目標とする。(H26: 83%)</p> <p>また、府内外の高校の取り組みについて情報交換を行う。</p> <p>エ 生徒指導件数をめやすに学校マナーの徹底を図る。 (H26 懲戒件数 4件)</p> <p>オ 入部率を前年度を維持する。 (H26: 52.3%)</p> <p>カ 保護者進路説明会・教員との懇談会の実施(前期に実施) 学校教育自己診断のアンケート項目を精選し、回答しやすいものに改訂し、多くの保護者の意見を集める。 文化祭やスポーツ大会、公開授業等の行事に保護者への参加の呼び掛けを行う。</p> <p>キ 分掌や担任制について企画調整委員会で継続・検討する。</p>	<p>ア 就学支援金、保護観察制度 合理的配慮、色覚異常等近々の課題について研修を行った。 (○)</p> <p>イ 授業研究については本年度はできなかった。次年度の課題としたい。(Δ)</p> <p>ウ 教員の外部人材の肯定率 H27: 87.8% (○)</p> <p>エ 生徒指導件数 (◎) H27: 12月懲戒件数0件</p> <p>オ 部活動入部率 (◎) 男子 62.7% 女子 55.4% 全国大会出場 女子1名 バドミントン団体出場 男子1名 三段跳び8位</p> <p>カ 保護者進路説明会を5月26日に実施。就労支援事業所も参加 (◎) 学校教育自己診断のアンケート項目を精選した。 生徒 50項目から20項目 保護者 45項目から10項目 教員 83項目から63項目 回収率が向上した。(◎) 生徒 66% (55.6%) 保護者 18.5% (7%) 教員 94.7% (H26 88.2%)</p> <p>キ 職員数の減少対応のための企画調整委員会への改組、委員会の組織人数の削減、会議回数精選は機能している (○)</p>
<p>5 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1) 校務の効率化による教員の生徒と向き合う時間の確保</p> <p>ア 生徒情報の共有化を正確かつ容易にするためのシステムづくりの推進</p> <p>イ 特別支援教育の教材の開発</p>	<p>ア ICT委員会の機能強化と情報セキュリティの整備充実を図るとともに、円滑な新校務処理システムへの移行を図る。</p> <p>イ タブレット型PC、書画カメラ等のICT機器の活用による教材を開発する。</p> <p>ウ 無線LANの環境を整備する。</p>	<p>ア 校務処理システムが正常に稼働しているか点検を行う。</p> <p>イ ICT委員会においてICT機器の研修会を実施する。また、ICT機器を使った公開授業を実施する。</p> <p>ウ 特別支援の公開授業を見学し、定時制にあった教材を作成する。 (タブレット型PC, プレゼンテーションソフトの活用)</p>	<p>ア 転編入生徒対応の校務処理はマニュアルどおりに行かないが、その他は稼働している。(○)</p> <p>イ 無線LANのセキュリティ構築が完成できず実施できなかった。次年度への課題である。 (Δ)</p> <p>ウ 条件整備としてプロジェクターを1台を導入してきた。プレゼンテーションソフトの教材も英語科、国語科、社会科、家庭科等作成した。(○)</p>